

藤椅子

吉武 涉

今は亡き祖母の藤椅子
祖母はこの藤椅子に腰を落ち着けて
人生の休息の時間を過ごしていた
その椅子のきしみは
祖母の穏やかな声となり
小さく部屋に広がった
疾風がうなる日も
原発が爆発した日も
祖母はこの椅子に安楽を求めた
その人生は長く
そしてつらかった
祖母の人生は
いつもこの藤椅子の上で揺れていた
祖母はここでいつも何かに浸っていた
覆いかぶさってくる何かを
この椅子の上で受け止めていた
あの黄昏の時に
椅子の上でひとり歌っていた祖母
祖母がかまだ
藤椅子が
お互いを呼んでいるみたい